

第5次基本計画策定専門調査会 第4回安全・安心ワーキンググループ
議事要旨

1. 日 時 令和2年6月24日（水）9：30～11：30
2. 場 所 中央合同庁舎第8号館5階共用会議室A
3. 出席者

座長	納米 恵美子	全国女性会館協議会代表理事
座長代理	種部 恭子	医療法人社団藤聖会女性クリニックWe!TOYAMA 代表
構成員	阿部 彩	東京都立大学人文社会学部人間社会学科教授
同	千正 康裕	株式会社千正組代表取締役

（議事次第）
意見交換

（配布資料）

- 参考資料1 第4次男女共同参画基本計画抜粋（安全・安心WG関連）
- 参考資料2 第4次男女共同参画基本計画の達成状況（安全・安心WG関連）
- 参考資料3 第4次男女共同参画基本計画における成果目標の動向（安全・安心WG関連）
- 参考資料4 男女共同参画の現状（安全・安心WG関連）
- 参考資料5 第4次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（素案）
- 参考資料6－1 性犯罪・性暴力対策の強化の方針（概要）
- 参考資料6－2 性犯罪・性暴力対策の強化の方針
- 参考資料7 新型コロナウイルス感染症対策に係るDVへの対応状況

（全体の議事の概要）

「女性に対するあらゆる暴力の根絶」「男女共同参画の視点に立った貧困等生活上の困難に対する支援と多様性を尊重する環境の整備」「生涯を通じた女性の健康支援」について意見交換し、取りまとめを行った。

（意見交換）

1. 女性に対するあらゆる暴力の根絶について

- ・ 今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、DV被害者のみならず、前DVの被害者も家庭内に居場所がなくなり、居場所のない子供たちが、居場所を探す中で、性被害に遭ったケースもある。また、10万円の特別定額給付金等の事例からは、「経済的なDV」が多く顕在化した。コロナ禍であぶりだされた課題は、今後の政策に反映させていく必要がある。

- ・ 昨今の事件も踏まえ、わいせつ行為等を行った者が教育・保育、子育て支援サービス等に従事することを防ぐための方策を検討できないか。
- ・ 地方公共団体が動きやすくなるよう、地方公共団体が果たすべき役割が、計画からも見えることが重要である。

2. 男女共同参画の視点に立った貧困等生活上の困難に対する支援と多様性を尊重する環境の整備について

- ・ 4次計画と比べても後退感のない計画にしていきたい。ひとり親関係で企業に対する働きかけの点は重要。ひとり親世帯等に対するモラルバッシングにならないよう表現には留意が必要。
- ・ 高齢期の貧困対策としては、高齢期に達するまでの取組が重要。就職氷河期世代への取組等も盛り込んでほしい。
- ・ 分野名については、「貧困等生活上の困難に対する支援」と「多様性を尊重する環境の整備」という2つの問題意識を持った形としたい。
- ・ 多様性は「尊重する」という表現にしてはどうか。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会的に弱い立場にある者に、より深刻な影響をもたらしている。
- ・ 「貧困」とか「生きづらさ」についても、コロナ禍の日常で課題が明確化された。社会的なセーフティネットは、平時のみならず、非常時・緊急時においても機能するようにしていかなければならない。

3. 生涯を通じた女性の健康支援について

- ・ 男女共同参画基本計画では、妊娠・出産の有無に関わらず、幅広く女性の健康を支援していきたい。
- ・ 特に10代～20代前半は、生涯にわたる健康の基盤となる心身を形成する重要な時期であり、例えば性暴力に関する加害者にも被害者にもならないための教育が必要。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大によって家事・育児・介護のケアワークが家庭に押し戻されたことで、女性への負荷が再び拡大し、心身への負担が増加しつつある。

以上